令和５年度　第６回香美市教育振興基本計画検討委員会

日　時　令和５年８月１日（火）　１８時００分～２０時００分
場　所　香美市立中央公民館１階大ホール
出　欠　委員 14 名中 10 名参加
傍聴者　1 名

内　容
１　開会

【議題】
①　令和５年度の取組について
・不登校対策
・小中一貫教育
・キッズチャレンジデー
・新図書館
・就学前教育
・ＧＩＧＡスクール（ＩＣＴ教育研究校）
②　次期教育振興基本計画骨子案
③　その他

２　閉会

開会
14 人中 10 人の出席

教育長あいさつ
白川教育長　　皆さま、こんにちは。この週末には沖縄周辺にいます大きな台風が近づいておりますけれども、こちらにも少し影響があるのではないかと思われるところでございまして、その分、日差しは少し今日も雲に覆われて若干、気温が低めかなというところではございますけれども大変夏の暑い中、またそれぞれでお忙しい中を本日もご参加をいただきまして本当にありがとうございます。今回は第６回の香美市教育振興基本計画検討委員会となっております。日ごろより香美市のよってたかって教育にそれぞれのお立場や、それぞれの専門性からご尽力、ご助力、ご助言、ご協力をいただいておりますことに心より感謝を申し上げます。

本日はまず今年度の柱としておる取り組みにつきまして概要でございますけれどもご報告をさせていただきたいと考えております。次に次期教育振興基本計画の骨子案につきまして、皆さま方からご意見をお伺いをしたいというふ

うに考えております。国のほうでも第４期教育振興基本計画、令和５年度から９年度までの５年間の基本計画を示されまして、「持続可能な社会の創り手の育成」および「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を掲げたうえで５つの方針を定めているところでございます。香美市の教育振興基本計画におきましても６年度からの５年間をまずはこの変化の激しい社会の中で、しかし子どもたちが香美市の子どもらしく立派にそれぞれ自分の思いや願いを実現できる教育の振興基本計画となるように、これは羅針盤だというふうに考えておりますので、忌憚のないご意見をいただいて本日の検討委員会を実りあるものにしていきたいと思っておるところでございます。何とぞ、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。本日はよろしくお願いいたします。

事務局　　それでは早速、議事に入りたいと思います。会議の議長は本会議設置要綱第６条の規定によりまして、委員長が務めると定められておりますので、中村委員長にお願いしたいと思います。何とぞよろしくお願いします。

中村委員長　　それでは早速、皆さんのお手元に配られている議題に基づいて、１番の令和５年度の取組について順次説明していただきたいと思います。事務局からよろしくお願いいたします。

事務局　　ご説明は事前にお渡ししておりますＡ３版の「令和５年度香美市教育振興計画」の資料を基に事業を抜粋して担当からご説明をさせていただきます。今回は不登校対策、小中一貫教育、キッズチャレンジデー、新図書館、就学前教育、ＧＩＧＡスクール等につきまして順次ご説明をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

事務局説明

中村委員長　　ご説明ありがとうございました。それでは、ただ今の説明に対してご質問、ご意見等ございましたら、どの項目でも構いませんので自由にご発言いただきたいと思います。

私のほうから、まず最初の不登校の件なんですけど、グラフを出していただいてもいいですか。最初のページに不登校児童数の推移というのがあって、このデータだけ見ると急激に下がっているので非常に政策がうまくいっていて実際も好調なのかというふうにも思うんですが、ちょっと気になるのが子どもたちの 1,000 人当たりの不登校児童生徒と書いてあるんですけど、小学校１年生から中３までで今、児童生徒は何人なんですか。

白川教育長　　1,600 人弱です。

中村委員長　　1,600 人で 1,000 人当たりの不登校児童生徒数というと、ぎりぎりの統計水準値になるので、平均値で全国と比べるごとに段々とちょっと減ってくるというか、可能性もあるので。1,000 人を切ったりすると１人が休むとすごくパー

センテージの比率は上がってしまうので、2,000 人、3,000 人で 1,000 人当たりで出すことに意味はあるんですけど、1,000 人台になったときに 1,000 人当たりの数値を出すというのは、1 人不登校を解消するとパーセンテージがすごく減るわけですね。それが適切に比べられているかということになるので、ちょっと危惧するのは 1,000 人当たりで比較するのでいいのかと思うので、それ以外の比較するような方法をつくり出していただいたほうが香美市にとっては適切になるのではないかなと思うんです。その辺りのことを考慮したうえで今後考えていただきたい。まずこれは努力の結果が出ていることは評価するんですけど、そこはどうかというところに関してはちょっと危惧する部分です。

あと、全体の数値は下がっているんですけど新規に不登校になる子どもの数はこの数値でいくと下がってないわけですよね。ここに関しては今までの政策というので、これだけ見ると新規に関しては機能していないというふうに思えるんですけど、何か新しい善処する予定の部分とか、強調する部分は特にありますか。何かありましたら。

白川教育長　ありがとうございます。実はおっしゃっていただいた２点につきましては課題だというふうに考えております。ちなみに 1,000 人当たりなんですけれども、数字としては昨年度よりも 11 名、不登校の児童生徒が減っておるという状況になっていますので、成果は各課、校長先生始め関係機関の皆さま方のお陰で随分減ったかなというところはございます。それを 1,000 人当たりにするのは大きい●●にはなりますけれども、ただ大きな成果であったかなとは思っています。

一方、新規の数は、これは小中学校を合わさっているんですけれども、昨年度の場合は小学校の新規の人数は随分改善をされました。中学校の現在の課題が中２生になったときに新規の生徒数の数が増えてくるという傾向が全体的に見ると大きいという課題があって、このグラフだけではなかなか見えない部分がございます。小学校等で新規の発生数を抑えることができているというのは、今日発表にございませんでしたけれども、１つは香美市の不登校対策マニュアルというものを作成をいたしました。これは今日おいでになっているような小学校の不登校対策が非常に綿密で一人一人の子どもに対応できる内容のものになっていること、一人一人の子どもの顔が見える対策だと私は思っています。

もう１つは、学校組織ぐるみで学校に来づらくなっている子どもをしっかりとサポートしていく体制がとられているということ。もう１つはデータ処理をしっかりしています。休んで２日目の子どもたちが、どこそこの学級のどの子どもさんで、先月から見るとこういう傾向があるとか、今回初めてだったけれどもその前段で一体どういうトラブルがあったんだとか、そういう細かいことまでが引き出せるマニュアルになっておりますので、これを香美市のマニュアルということで、少し指標をこちらでまとめさせていただいたりなどして、全部の小中学校でまずは初期対応マニュアルが非常に優れているわけですけれ

ども、その取り組みを行ってもらっています。その結果、ここのグラフを見ると見えない部分ではありますけれども一定、成果は上がってきていますので、このことを続けていきたいと考えています。それは昨年度からやっていますが、今年度も引き続き行っております。

併せて、発表のところでもございましたけれども、４つのステージ、未然防止と初期対応の２つのステージにつきましては、すべての児童生徒を対象にした対応の対策で、ここが最も大事ではないかと。ここのところで、まあいいだろうとか、まだ大丈夫じゃないかとかいうことで、何となく見守っていくとチャンスを逃してしまっていたということがこれまでもあったのではないかと。学校を休むという前に何かあっているはずですので、そういったところも含めて全校を対象としています。特に未然防止では「わかる授業づくり」、「心の居場所づくり」、「多様な絆づくり」、この辺りを小中一貫教育の中で統一して行っていただいているところでございます。

自立支援ということになってまいりますと、なかなか集団に復帰するまでに専門機関の皆さんのお力添えをいただかないと、ご家族の皆さまだけでは集団の中になかなか帰していけないという状況になっている子どもたち、ご家族への対応を実施。個別支援はもっとさらに専門的な、例えば医療とか福祉と特に連携をする必要があると。こういうふうに４つのステージに捉え直して、それぞれに対応した取り組みを行う必要があるというところで取り組んで２年目になります。

新規をなくすというところは未然防止と初期対応、ここのところをしっかりとやっていくことで改善していけるという仮説と、少しそういう兆しが見えてきているので、しっかり取り組んでいただいておるという状況でございます。

中村委員長　ご説明ありがとうございました。説明いただいたことはよく分かるんですけど、実情と統計的な処理をして現状をどう把握するかということに関していうと、今おっしゃられたことでいえば、中学校の新規はすごく減ってきているというのは分かるんですけど多分、児童数が中学校２～３年生と小学校１年生で１学年で2～30 人ぐらい違うんじゃないのかと思うんです。そうすると統計数の具体的な比率というのは全然異なってきますので、小学校１年生段階からはどうなっているかということと、中学校２～３年生で全国でどうかということに関しては違う統計値で把握して、特に香美市の場合はどうなっているかとかを見ないといけないのではないかなというふうに思いますので、その辺の分析の視点をちょっと新たに入れてもらったらいいのかなとも思う。一定数、児童数が少なくなってくると統計的な意味そのものがあまりなくなってくるので、独自の視点を持っていかないといけないのかなというふうに感じています。

今言われたことでもう少し学校種別に適応して考えると、１校だけがすごく大きくて、あとがすごく小さな中学校とかになったり、小学校でそういう傾向が出てくると当然、考え方を変えていかないと、そこの学校が持ってる課題が全然違っている課題の中で新規の不登校が出てきている、対応の仕方が変わっ

てくるというふうに思いますので、この辺を全部一くくりにして見るというと、実情があるという風に思いますので、多分、努力をされて下がったところは評価したいと思うんですけど、実情をどう分析するかという視点では、ここの計画の評価の仕方によっては新しい基軸を入れていくということは必要になってくるんじゃないかなと感じました。ありがとうございました。引き続き、他の項目のお話をしてもらってもいいですか。

市原委員　　小中一貫教育についてお願いということでお話させていただきますけれども、ぜひ９年間を見据えた計画的な評価、国語、算数、数学、英語のカリキュラムを９年間を見据えて立てていただきたいということと、それぞれルーブリックで３カ年の評価をやって、一人一人の学力をしっかりつけていくということをやりたいなというふうに思います。といいますのは、高知県では高等学校の 30 校を対象に基礎力診断テストというのを毎年行っております。１年生、２年生でそれぞれ理解の仕方が違いますけれども、例年香美市からの入学生徒がそのテストによっていろいろ学力に応じてＡ～Ｄまでランクを付けるわけですけれども３教科のいわゆるＤ層の生徒が毎年６割前後というふうなことです。こういった生徒を対象に２年間、錬金術のごとく教科書をやって２年生の２回目でＤ層が33％～40％ぐらいまで何とか減ることができますけれども、33％～40％の生徒に関してはＤ層というレッテルを貼ったまま卒業していくというところです。学力と一定、自己肯定感との相関というのはありますので、何とかしてＣ層以上になって卒業させたいというふうに思っているわけですけど、なかなかそこまでいかない、時間が足らないという現状があります。

それから探求する学校というところを推しておりますけれども、探求をしていくうえでのベースとして評価の見方、考え方というのはあります。評価の見方、考え方をしっかり身に付けて、それから探求的な見方、考え方をやってそれぞれ往還していくようなところを理想としておるわけですけど、そういうところを狙っていっているわけですけれども、まだまだそれへの時間が足りないという現状があって、ここはもうぜひ小中一貫教育で系統的評価における一定、全国学生を始めもろもろそういったところで数値目標等を設定されて香美市の皆さん、市教委の皆さま方はやられていることだと思いますけれども、誰一人取り残さない、そのための手立て等含めてお願いしたいところでございます。すみません、勝手なことを申しました。

上島委員　　２点あるんですけど、小中一貫教育とかいうことで今、山田小学校区から鏡野中学校区の中でも保護者さんが連携しようじゃないかということで、連携が始まっています。これは各小学校が１つの志を持って鏡野中へ送り出そうじゃないかということで取り組みが始まったばかりなんですけれども、そういったところにも市の教育方針であったり、こういう取り組みをしているんだというようなところ、校長先生が入っているので、そういった場にも積極的にこういう情報を下ろして、こういうふうにやっていこうじゃないかと。先ほど校長先生も言ったようにこういう現状があるので、みんなでこういうふうに掲げてい

こうと。実際、香美市の子どもたちの学力というのも学校の問題だけではないというふうに自分自身は思います。やはり家庭学習の大切さであったり、家庭でどのように親が子どもに対して向き合うかといったところであったり、声掛けの仕方であったりというので学習意欲の持ち方なんかも変わってはくると思うので、やっぱり保護者さんと学校とが同じような方向性を持って向き合っていくというのが一つ大事なのではないかなというふうに思うので、またそういったところに対しての声掛けであったり、親の在り方等、子どもに対してどういう声掛けが必要になっているのかというような情報なんかも下ろしていってあげると家庭内での子どもの健やかな成長につながるのではないかなと思うのが１点。

あと、また最初に戻りますけど不登校の問題等々、やはり学校が一生懸命やってる山田小学校は素晴らしい成果を出したというふうに自分自身も間近で見ていて思ったんですけれども、原因というのは学校だけではなくて、家庭の問題とかさまざまな問題があると思います。それがどこで起きた問題なのか、学校で起きた問題なのか、児童クラブで起きた問題なのか、放課後子ども教室で起きた問題なのか、家庭内で起きた問題なのか、はたまた本当に自由時間で遊んでいるときに起こった問題なのか、それは 24 時間さまざまな要因があってのことだと思うので、やはりそういった学校だけではない教育機関、放課後子ども教室であったりとか、児童クラブなんかとも定期的な連携、情報交換をしていくというのも大事なことなのではないかなと思いますので、そういったところにも配慮していただければいいかなと思います。以上です。

中村委員長　ありがとうございます。事務局、何かありますか。

白川教育長　先ほどＤ層が６割というお話がございましたけれども、Ｄ層の話と直接つながるかどうかわかりませんけれども、香美市の子どもたちの学力、中３生と小６で全国学力学習状況調査という調査を行っております。小学校におきましては全国平均よりも国語科も算数科のほうも結構、上の数値をだしておるところでございます。中学校におきましても国語につきまして、マイナス３ポイント以内だと、まあまあ全国平均を維持しているというふうな捉えでおるわけでございますけれども、数学にしましても国語にしましてもその範囲内で鏡野中学校は頑張っております。英語は苦戦していますけれども、英語で随分ご迷惑もしておるかと思いますけれども、全国の学力学習状況調査の学力の状況結果ではそのようにはなっておるところではございます。なお、いわゆるそのＤ層の子どもたちにどういった支援をしていくのかということにつきましては、個別最適な学び、ＩＣＴの効果的な活用と今後の課題としてしっかりやっていきたいというふうに思っております。全体の学力としては、小中の中では低いというところではないというところはお伝えをしておきたいと思います。以上でございます。

中村委員長　他にございませんか。

中山委員　　就学前教育の研修というところで発言させていただければと思います。私が香美市の保育所の先生方と知り合って 15 年前のことを思い起こすと、そこから本当に研修に対する姿勢が、内容もすごく充実してこられたと思っております。本当にＡ３の用紙でまとめてくださっている目標値などもどんどん上がってきて、内容も充実されてきたんだなと思いながら今日の説明も聞いておりました。部会の研修の充実をというようなお話もありましたので、以前から私が少し感じていたところも述べさせていただければと思います。

各部会は本当に細かく研修計画も立てられて、先生方が学びたい内容で学んでおられるかと思います。その中で、外部研修を入れられたというところは非常に大きなポイントだったかなとは思っているんですけれども、例えば県の研修でブロック別研修会があったかと思いますが、13 ブロック高知県を分割して、そのうちの１つのブロックが香美市のブロックになるんですけれども、香美市内で完結しているということがあって、市外の先生方の違う目からの意見をもらうというのが、逆にいうと難しい状況なので、部会の研修なんかで市外の保育を見る、学ぶ、またそこで意見交流をしていくということは非常に大事なのではないかなとは思っています。

現在どのようにやられているかはちょっと分かっていないんですけれども、以前は半日研修で設定されていたので、午前の保育は見られるけれども午後の協議には参加されないで帰るということがあって、非常に残念だなと思ったことがありました。やはり生の保育を見るということは子どもから学ぶ、そして子どもに応じた保育はどのようにするとよいのかということで、特に保育はハウツー物ではないということをよく言われていて、手法だけを学んでも保育の質の向上は求めにくい、あの保育いいなと思ってそのまま取り込んでやると当然、目の前の子どもが違うのでミスマッチが起きやすい。誰のための保育をしているのかというと、目の前の子どもなので、子どもが何をやりたいと願っているのかという内面を理解しながら、その子に合わせたアプローチをしていくという、非常に教科書のない保育、教育が本当に専門性の問われる非常に難しい教育だと言われています。そういった意味でも保育を見ただけで学んで帰っていってしまうと、いいように理解して、いいように取り込んでしまうという危険性が伴うので、やはり協議まで出席をして、学んで帰ってくるということは非常に重要だと思っています。

そういった意味で、例えばですけど部会の研修は今も半日研修が行われているとすれば４回あるうちの２回分を１日研修として出す園とか先生方は大変かとは思われるんですけど、しっかり学んでこれるような体制をつくっていくとかいうようなことも一つ大事なのではないかなと思いました。ぜひ、学ばれたことがどのように実践につながっておいでるのかということを次期計画でも反映していただいて、パーセンテージだけを上げるのではなくて、どういう学びがあって、どういう実践につながっているのかというのを見ていただけると嬉しいなと思いました。

１つ質問で、新しく新規事業で講師の先生をお呼びしてやられているという研修があったかと思います。10 の姿などを生かした巡回して指導していただくということで吉田先生の研修ですけれども、生活科を中心にご実践なられたというようにもお聞きしたので、園で実際にどのようなご指導をいただいているのか、またそれがどのように実を結んでいるのか、ちょっと５月 30 日の研修などの様子などを教えていただけると嬉しいなと思いますがいかがでしょうか。

白川教育長　まず吉田豊香先生に今回研修などをしていただいているというのは、いわゆる架け橋期の教育というところをこれからしっかりと「よってたかって教育」で厚いものにしていかなくてはならないというところでございます。小中一貫教育につきましては一定、実施済みでなっておりますけれども、こちらのほうはそれぞれ中学校区のそれぞれの特色ある取り組みで非常によく機能してきていまして、そのことは確かに子どもたちの学力にも反映されてきているというふうに実感しています。そうしましたときに、例えば大栃小中保育所なんかはいつも一緒で、自然に架け橋とかなんとか言わなくても普通に日常的に接続ができているわけですけれども、やはりそういう中でも社会の変化が激しい、世の中に出ていく子どもに資質をどのように身に付けるかというような中での義務教育における学習指導要領の内容等も随分変わってきておりますので、そういったところに非常に造詣の深い、ご自身ももともと幼児教育で幼稚園でずっと長いこと先生をされていて、あるとき卒園した自分たちの子どもを小学校に見にいったところ、これは随分古い話ですけれども、運動会みたいに教えたそうなんです。なぜか小学校の先生にちゃんとしなさいと叱られている。そういう場面を見たときに胸が詰まったと。あんなに立派に年長の本当に園のリーダーとして育っていた子どもたちが小学校の１年生になった途端にそういう状況になってしまうというのがもう本当につらかったということで、それから小学校教育をもっと研究して、何でそういうことになるのかということで生活科の誕生に大きく貢献された先生でおいでます。

そうした中で今の現状で、なかなか香美市の中ではもっともっと早く保育園の先生方は一生懸命、保育教育をしてくださっていますので架け橋期のプログラムといいますか、今、先生がおっしゃっていただいたように子どもの内面を理解しないことには同じ方法ではうまくいかないというところを小学校へも伝えていくということをしないといけなかったんですけれども、今回その手を入れて、先生の経験を踏まえてご指導いただきたいと思って始めたところです。山下先生が実際いましたので、一番よく分かってくださっていると思うんですけど、まだ一回だけなんですけれども、山下先生、構いませんか。

山下委員　今回５月に初めて吉田先生がおいでてくださいました。今さっき教育長さんがおっしゃったように、元幼稚園の先生ということで子どもの見取りというか、それと同時に保育士の手立てとか、関わりとか、そういう部分をすごく短時間で的確に捉えてくれて、このときは他の保育園の職員も入ったんですけれども

好評というか、それを聞いたときにやっぱりすごいなと思って、私たちが見てほしい部分とか、その日の狙いとか、そういうのがすごく的確だったんです。当たり前の話ですけど。私はあけぼの保育園にいたけれども、その後、なかよし保育園のほうにもすぐ行ったんですけれども、やることは違っていたけれどもやっぱり狙いの定め方とか、そういうことはすごく勉強になったんです。今、架け橋期のことを言ってくださいましたけれども、吉田先生に今年一年来てもらって、保育園側からどういうふうに小学校に向けてアプローチをしていくか、私たち職員一同、愛情を持って一生懸命育てた子どもたちが小学校嫌じゃなくて、小学校を楽しみにしていた子どもたちがずっとそういう気持ちを持って学習に臨んでもらいたいという思いが一番あるので今、私たちがしている保育がそういうことにつながっていければいいなというふうにずっと長年思っているんですけれども、今年一年、吉田先生に来ていただいて、よりアプローチの仕方というか、学校に向けてのそういうことを学んでいきたいなというふうに私たちは思っています。

あと今年度８月、２月とあるんですけど、私が今一つ思うのは保育園での研修のときに小学校の先生が入ってくださったらいいかなというふうに１回目を終わって思いました。どこを見るかとか、今この狙いはとかいう話をぜひ架け橋期の研修をしてくださっている先生が山田小学校からもあけぼのに来てくださっていますけど、一緒に聞きたかったなとすごく思ったので８月、２月とあと２回あるので、ぜひ保育園の中に入って一緒に見たり聞いたりしてほしいなというふうに今願っています。以上です。

中村委員長　　よろしいですか。他にございませんか。

上村委員　　質問で、就学前教育のその他の取り組みのところなんですけど以前、自分もこのことに触れたときがあるんですが聞かせていただきたい。保育園の合同調整部会にも自分もよく顔を出して行かせていただくことが多いので、そこでここに書かれている内容というのはタブレットの取り扱いという意味ですけど、下を見ていったら結構、業務的なものが非常に多い感じがするんですが、タブレットというのは通常の業務用ＰＣみたいなイメージではとちょっと思ったんですけど、そこのところはどうなのかというところと、２カ月ぐらいされたと、サンプル的にということであるけど今後、今、国の状況なんかとしても保育園の業務的なシフトのこととか諸々ですごく大きく動いているなという感じが自分はしているんですけど、今後そういうふうな方向にもってくる可能性というのはあるものなのかということを聞かせていただきたいです。

事務局　　タブレットを使ってとか、ここに書いてある業務を活用できたらということで、個人情報の関係で心配していたんですけれども、それも実際の名前を使ってやってもセキュリティーが大丈夫だということで、やるとした場合に本当に実際にやったらどうなるかということでやろうとしています。中身はこういう業務なんですけれども、２点目の今後どうするかということなんですけど、まだ正式に上と話はしていませんが、できたら予算要望をして補助金はあります

ので、それを活用して担当監としては来年度に導入できるように財政担当課へ要望を上げていただくように考えていまして、それを踏まえた前段の準備的なところもありまして、機械が非常に保育園の先生が日ごろ慣れ親しんでないこともあって、そこがスムーズにできたらということでの取り組みでございます。

中村委員長　よろしいですか。

植村委員　ＩＣＴの活用についてなんですけれども、ＧＩＧＡスクールコースは令和３年度に始まって取り組み、どういうふうに進めていけばいいのかということでスタートしたんですけれども、気が付くともう早２年半ぐらいが経っているということです。当初は当然、子どもたちもそうですけど私たち教職員も非常に焦りがありまして、何から手を付けていったらいいのかというふうなところから進んでいったんですけれども、２年半経ちますと慣れてきたというところが確かに手応えとして感じられるんですけども、その分いろんな課題がまた見えてきたというようなところで、この前も県のほうでも話し合っていたようなんですけども、もちろん授業の中でどうやってこういうことに活用していくのか、こんなのは永遠の課題だと思いますけれども特に今、学校での授業、活動とお家での学習あるいは活動、ここをどういうふうにしてつないでいくのかなと。それをうまくつないでいけれるようなＩＣＴの効果的な活用というのを在り方についてどういうふうにしていけばいいのかというようなところを恐らく他の学校さんでも今考えられているところなのではないかなと思っています。

そこに対する教員のイメージ不足、スキル不足というのはもう明確でございまして、ここを何とか自分たちも克服していかなければいけないということで、うちの学校なんかも自前のものしかできないんですけれども、夏休みの終盤にも案件を入れて、こういった在り方をどうやってやっていこうかという研修を自主的にやっていこうということで計画を立てているんですが、そこは自分たちもいろんな情報をいただきたいところもありますし、いろんな県や教育事務所さんなんかも教師塾というふうなところでこういったことを発信してくれているので非常に助かっているんですけれども、１つその中で教育な話になりますけど、ＡＩのデジタルドリル、ああいうふうなものの効果的な活用ということは非常に大きいのかなと考えています。今もｅラーニングは導入もしてくださっているんですけれども、ちょうど今日のＩＣＴの教育研究推進ではデジタルドリルなんかもいろいろ試行の段階でやろうというふうなことがありますので、そういったことなんかはぜひ研究校、自分たちは入っていないんですけども同じ香美市内の学校ですので、香美市さんが作成というところに合わせて、また紹介をしていただきたいと思うし、今特によくパンフレットが学校に来ていますよね。大阪とかはいろいろ民間企業が開発の宣伝をやっているところに近いのがあって、そんなふうなところに学校現場を見ていませんので、そういったところなんかの情報もできたらタイムリーに教えていただきたい。これは自分たちは設置者に対してこんなことを言うのは申し訳ない話なんですけども、ぜひ協力していただければなと。

もう１つはＩＣＴは個別最適な学びという部分がクローズアップされるんですけど、それだけではなくて共同的な学びというものを今、学校は通常の授業の中でもやっていますので、ＩＣＴを活用した共同的な学びの姿というところも大事にしていかないといけない。これは授業中だけではなくて、例えば家庭に子どもたちが帰ったときに何か休みの日なんかに同じ班の子どもたちがタブレットでつながって、そこでやり取りができると、そこが１つの共同的な学びになってくるというふうなこともあったりしますので、そういうふうな学習スタイルというようなところの研究も学校としてはこれから進めていかないといけないんじゃないかなというふうに感じました。また、そこにも申し訳ないんですけど応援とか支援もぜひよろしくお願いしたいと思っております。

中村委員長　他にございませんか。

上島委員　今、香美市の児童クラブを運営しているんですけれども４年前はもう本当にパソコンとかいう機器というのはほとんど使っていませんでした。児童クラブを統括で運営するためにすべての児童クラブにＷｉ−Ｆｉを付けてパソコンを導入して、すべての報告処理案件であったりというものをパソコンで送ってくるというふうにして、最初は本当に電源ボタンがどこにあるかもしらないような定年間近の職員が今は全国系の意見書だったので、県外でＺＯＯＭで参加しましたといって、今ブラインドタッチでばりばり書類をつくるようになっています。最初はやはりアレルギーがあると思うんですけども、どんどんペーパーレス化であったり、そういった時代になってきておりますので、保護者さんとの連絡もタブレット１つで全クラブが保護者さんとつながって、保護者さんが朝書き忘れたことも書き込めるような状況で連携がとれるような状況にも今は完了しておりますので、これは時代の流れというか、なっていくと思いますので、子どもの入退室もすべてＱＲコードをかざしたら子どもが来ましたよという保護者さんにメールが行って、退出するときにはそのＱＲコードをかざしたら帰りましたと。別のおじいちゃん・おばあちゃんが来ても保護者さんには帰ったんだなというのが分かるような状況に既になっていますので、どんどんそういうような仕組みになっていくんじゃないかなというふうに思いますので、児童クラブのほうは一応そういったことは完了しているという報告だけさせていただきます。

山下委員　ＩＣＴ機器の職員へのアレルギー解消、目的と書かれていたので、アレルギーというのが機器に関するアレルギーだけではなくて、私たちが心配しているのは初めて子どもさんを持った家庭とか、支援の要る家庭とか、さまざまな家庭環境があります。ゼロ歳からの一番の入り口、初めて子どもを持ったとか。そういうご家庭とかにも例えばさっき言ったみたいに登校園管理とか、伝達事項、健康観察管理、食事、アレルギー、薬、子どもさん一人一人によっても熱の出方も違うし、今コロナのことで解熱後 24 時間で登園可能とか、例えば発熱欠と出ただけでは一体いつの発熱なのかとか、そういう細かなこととかが欠席連絡のみというのはすごく心配なんですよね。私はそういう部分のアレルギ

ーはすごくあるけれども、機械を入れることに対してのアレルギーはそれほどないと思っているんです。例えばシフト管理とか計画書類作成とか、ＩＣＴを併用して人と人との触れ合いも残しつつみたいなところを進めていければいいかなというふうに思っています。

香美市だけじゃなくて、他の市町村にもあちこち聞いてみたんですけれども、本山も入っているとか、情報はいろいろ話を聞いています。もう紙ベースのお便りもなくなって、すべてタブレットですぐーるで配信しているとか、すぐーるでもらうのはいいけれども紙で欲しいという人には紙もあげるとか、両方欲しいとか、今さまざまな取り組みがされていて、その中で香美市に合った方法をこれから考えていったらいいかなというふうに思っています。全くの機械に対してのアレルギーというわけでもないということをお話したいと思いました。以上です。

中村委員長　　ありがとうございました。いずれにしてもＩＣＴ、その他の機器を入れて労働時間を短縮したり、いろんなものを合理化していく方向で使えるかどうかというところが問題なので、本来の業務をきちんと時間をとってできるためにそういう構造にしようとするところが狙いと違うような構造にならないようにどういうふうにするかということだと思いますけどね。

最後にもう１つ質問したいんですが、図書館の件で誰も質問されていないので一応、報告書の中には物部と香北のことも少し書いてあるんですけど、途中から全部かみーるの話だけになっているんですね。私はこれをつくって推進するほうの委員会をずっと運営してきたこともあるので、現状には一定程度の満足度はあるんですけど逆に、香北と物部でも図書館を中心とする学習のネットワークがどうなっているかということに関しては危惧するところがあります。やりっぱなしになっている状態で町の人たちがどういうふうに考えているのかなというのがありますし、以前から言っている香美市全体として教育構想ネットワークが全体的に発達しているのではなくて、一部だけで推進されているようなふうになってはしないかということを危惧するので、香北と物部に関する状況報告ができるようでしたらお願いしたいと思います。

事務局　　状況報告はうまくできないと思います。というのは、やはり私は物部と香北の図書館には行ったことがないので、ただ職員は必要な分を配置したいと考えておるんですけれども、物部に関しては今年からは司書を持った職員ということで会計年度任用職員を配置することが出ていますが、十分ではないと思います。かみーると比べると利用者数はすごく差がありますので、先生の言われたとおり、かみーるを中心に今動いている状況は間違いないと思います。

中村委員長　　できたら今あるリソースでどのように残りの２つの地区に図書館活動とかが恒常的にパワーアップできるような状況にするのかというところをもう少し考えないといけないのかなというように思いますが、ここにこそＩＣＴとかを高度に活用して、住民のニーズに合ったようなシステムをどういうふうに導入するかを考えないといけないのかなというふうにちょっと思っています。

これはチャレンジデーのこととか探求型の学習とかというのにも入っているんですけど結局、学びのネットワークをどういうふうに拡大していくかということだと思うんですね。すべての機関で繋いでいって子どもたちが動機付けが広がっていって、すべての意欲に応えられるようなシステムというのがネットワーク化されていって、どんどん広がるということが重要なので、応えられて必要な情報が取れるという子どもが多くなることが重要なんですけど、それがこういうことによって途切れているわけですよね。香北や物部にいても図書館でいろんなものを調べられたり、ネットワークを十全に使って本を予約したり、かみーるにあるものがすぐに届くとか、そういうことを何度も経験してもらえると探求型の学びとか、いろんな取り組みでやっていることが全体として生きるようになると思います。館にある構造的なリソースを使っている側、教える側のほうが意識して、それで子どもたちが自由に学べるようなシステムで動機付けとか意欲を衰えさせないようにシステム化するというところが重要で、先ほどありましたけど学校だけで学力や全体的な能力というのは伸びないので、むしろ一人で学校外の時間でどれだけ学習できるシステムが整っているかということが市の総合力になるわけです。そうすると、家庭だけで賄うというのは無理だし、それ以外のところでどういうように学べるかということが子どもたちにも意識していただけるように教える側が配慮することが重要なので、ぜひ図書館のところではそのことも含めて香北と物部の地区のことも考えたうえで、どういうふうに構想化するかということを課題に入れていただければいいのかなというふうに思います。

小松教育委員　香美市立図書館物部分館の司書をしております。その中から中村先生の先ほどのご発言への補足なんですけれども、物部は子どもの利用がほぼないんですね。香北は少しあります。ですけれども、物部分館自体は市民の方の満足度はそこそこは高いと思っています。ただ、ＩＣＴへの要望というのは具体的にくみ切れていなので、やなり従前の形での利用に満足している方が多いようには思います。それから、割と学校図書館も頑張ってくれているので学校の図書館司書の方との連携は割ととれているかとは思います。ただやっぱり、できれば１台、そういった端末が入ればありがたいですし、Ｗｉ−Ｆｉもあればなお嬉しいです。以上です。

事務局　先ほどの小松教育委員さんのご意見なんですけれども、あくまでも構成員メンバーではございませんので、今回のご参考までということでお聞きいただいたらということでよろしいでしょうか。お願いいたします。

中村委員長　他にございませんか。ないようでしたら次の議題に移ります。

事務局　それでは、第２期香美市教育振興基本計画の骨子案につきまして担当からご説明をさせていただきます。

事務局説明

中村委員長　　ただ今の説明に対してご意見、ご質問お願いしたいと思います。

中山委員　　Ａ３用紙の両面刷りの探求の（３）のところで活力ある保育所・学校づくりの推進の右側②のところなんですけど、保育者、教職員等の資質・能力の向上というところで、③の資質・能力は子どもたちのことを指しているかと思うんですけれど、教職員、先生方について同じ資質・能力という表現で置くほうがいいのか、実は就学前の保育所の先生方向けに県が出している「高知県教育・保育の質向上ガイドライン」の中で経験年数、キャリアステージに合わせた先生方の指標の中では「資質・指導力」という表現をしていて、能力というよりは指導力で端的に何を求めるのかというように表しているので、小中高の先生方がもしよければ、子どもたちと同じ能力ではなく指導力という表現にしていただいたほうが明確になるのではないかなと思ったりします。

白川教育長　　おっしゃるとおりです。

中山委員　　それと話が飛んでしまうんですけど、次回これが承認されて進んでいったときに右へどんどん進んでいって内容が提示されるという話があったので、私のほうが就学前の教育の中でぜひ次回の計画の中で入れていただきたいのは、先ほど吉田先生方の研修の内容に踏み込んだところ、参加率だけではなくて、どういった内容で先生方の指導力を補充しようとしているのかというところが踏み込んでいただけると、本当に保育・教育の質の向上につながっていくのではないかなという期待感と併せてなんですけれど、先ほど業務の改善のためのタブレット、ＩＣＴ活用というところが出ていましたけれども、教育の内容に踏み込んだ、子どもたちが活用できるＩＣＴというところをぜひ次回の計画の中では盛り込んでいただけないかなと思いまして、予算の関係もあるので大きな計画をどんというようなことは難しいかとは思っているんですけれども、やはり生まれながらにいろんな情報の中、機器の中で生きていく子どもたち、そして社会に羽ばたいていくときには私たちの想像を超えたところで活躍していく子どもたちになるので、乳幼児期は圧倒的に実体験が重要視はされていますけれども、年齢が上がれば実体験だけでは得られない経験を思うとＩＣＴも活用しながら豊かな体験を得らえるようにしていくかというようなことも今問われています。

例えば野菜を育てるとか草花を育てるといったときに、自分がお家に帰って見ていない期間にどういうように成長しているのかというのを定点観測しているようなもので見てみると、ＮＨＫの forSchool なんかで出ているものだけではなくて、私の育てている野菜がこんなになって育ったのというようなことが知れることによって興味、関心がさらに耕されるとか、例えばセミの羽化もそうですけれども、見てないような時間帯に行われるというようなこともあったり、以前、私が勤めていた園ではコオロギが鳴くというところを撮りたいというような興味で実際に撮っていると、よく聞いていると泣いてる、羽をふるわせているとかというようなところを年齢が低いほど一般的な出回っているものから学ぶというよりは、目の前の私が大事にしているものがどうなのかと

いうところとつながりながら学ぶということが、それそのものへの興味や関心、探求心を耕していくというようなことが発達上はあるわけで、そういったときに実体験だけでは得られない学びをＩＣＴは支えていくというようなところも十分あろうかと思うので、そういったところが描けるならば書いていただきたいなというように思います。以上です。

中村委員長　ありがとうございました。教育内容を充実させていくうえで乳幼児から大学生、成人、大人まで含めて市に住んでいる方が学習する際に十全にそういう機器を使いこなせるかどうかだとハードの面がやっぱり一定、図書館で司書に限られた職員しか置いていないとか、ハードがアクセスすると困るだろうという意味では学習できないので、優先順位があると思うんですけど、限られた予算の中でどういうふうに使うかというときには、学習の面だったら拡大する方向というのと、もう１つは子どもの学習内容が十全に充足するような予算の使い方をしていただきたいとすごく思います。よろしくお願いしたい。この後の具体的な施策とか具体的な項目の中に優先順位がきちんと入っていただくと非常にいいのかなと思います。他にございませんか。

植村委員　創造の（３）地域社会をともに創造する場の充実ということがあって、香美市学園都市の充実というところがありますが、この表の指標を見てみますと、就学前から大学まで連続性のある学びの実現で香美市内の中学校の生徒、山田高校への進学率 50%以上を指標とされていますよね。山田高校から高知工科大学への進学者数、毎年 10 名以上と。素晴らしい指標だと思うんですけれども、自分の立場的なところからは全く分からないので突拍子もないことを言うかもしれませんが、進学率を市町村の香美市内の中学生の山田高校への進学率を 50%ぐらいにするとなったときに、例えば山田高校さんが魅力ある学校づくりをして、いろんな実績を上げて学校を決めていただくというふうなのもあるかもしれませんけど、実際に入試制度の改革とか、選抜制度の在り方とかいうふうなことが県のほうで話し合われてきた、そんなことは全く協議はされないんですかね。何を言いたいかというと、例えば今、教員がすごく不足していて、例えば高知県の小中学校、高等学校の教職員の入試制度というものがあって、これは一応、地方公務員なんです。公平公正の原則で採用しなければいけないので一般の県庁の職員さんとかと同じようなレベルでの採用とかいうふうになっているんですよね。でもそこには人材確保とかいう視点で、例えば加点制度があったりとか、免除制度があったりとかいうようないろんなことがある。入試というものはそれができないんでしょうかね。これは大学でも同じなんですけど、高知工科大学もそうなんですが公立学校というのは日本の大学の中でもすごい人気のある大学なんですけど、地元の学生さんがなかなか行けない。県外には負けているということはあるかもしれませんけど、何か入試なんかでも有利に働くといったらおかしいですけど、何か選抜制度なんかでいろいろ考えたことはないんでしょうかね。こういう指標があるとおっしゃったときに、例えば中学校の進路指導を充実させるのはもちろん有りだと思うし、受け

入れていただける学校の魅力ある学校づくりというのもいいんですけど、何か優位性があるような制度の仕組みというふうなものは入れることはできないんでしょうか。そういう世界で生きてないので分からないですし、今、言葉でふさわしくないかもしれませんけど、せっかく学園都市構想でこういう指標を掲げられていますので、何か香美市内の中学生なんかに優位に働けるようなシステムがあればどうなんでしょうか。ちょっと考えが甘いでしょうかね。

白川教育長　大変貴重なご意見をありがとうございました。先ほど大峯のほうから申し上げましたように指標のところにつきましてはまだ全然、課内でもこれから審議を重ねていくところでございますけれども、今おっしゃっていただいた視点はとても重要な視点だというふうに考えております。指標があるということは施策があっての指標でございますので、具体的な有意性のある施策を香美市教育委員会がどこまでそれを策定していくことができるのかといったようなことにつきましては今後、内部でしっかりと協議を重ねていく必要があるというふうに考えております。加点をするという、とてもいいアイデアだなと。ぜひ使わせていただきたいと思います。

市原委員　高校の立場からあまり深くは言えないんですけれども、香美市の中学生に関してはウエルカムで十分受け入れたいという気持ちはありますが、今年度の香美市からの進学率が 30.5%です。指標で 50%とありますけれども、ここまで高めるためには一定、魅力を知ってもらわないといけないし、それに向けて取り組み等をこれからまた充実させていくわけですけれども、高知工科大学に関しましては山田高校が進めている探求活動というところが非常に工科大学の研究と親和性が高いところがありまして、よく推薦入試等で一定そこの辺りは高知工科大学のほうも理解していただきまして、ミッションポリシーと一定リンクしているということで報告もいただいているところです。この 10 名というのは一定クリアできるような目標であるかなというところが今の現在の意見でございます。

中村委員長　まず数値的なことをお話すると、私の通学している経済マネジメント学部というのは１年だけこっちにいて、２年から高知市のほうに移っているんですけど、それでも全体の３割を県内出身者が超えています。一定程度、山田高校からもとらせていただきますし、残りの工学部３学部は 20 数%ですが、それでも県内では国公立大では一番県内出身者をとっている大学です。ですから県内割合を一定とろうということで設定して比率があるので、できるだけとるために入試もいろいろ改革をしてきて頑張っているんですけど、そこは大学の基礎的な構造から、全国に開かれた容量を取らなければいけないということになっていますので、できるだけ香美市の小中学生の皆さんには山田高校へ行って勉強をしっかりしていただいて、何人で行っていても入ってこれるというふうになっていただければいいかなとも思っているんですが、結果として幼稚園から大学・大学院まである市にいることの教育力の高さが子どもから大人まで感じることができるようなものになればいいと思うんですね。ネットワークの高

度さがここにいることによって生きていくというんですかね。進まれる方が増えるし、ここにきて学習しようと思う人が増えるから工科大学へ行って、そのような質を目指すような方向性の基本計画になっていただきたいというふうに思うわけですね。

１点補足しておかなければいけないところがあって、山田高校さんはもちろん思ってらっしゃると思うんですが、県とか国の責任者になっているそれぞれの高校の場合、市でどこまで把握して、この基本計画を書くのかというところで難しい部分があるじゃないですか。当然、皆さんご存知だと思うんですけど、そこは何とか協力によって、市の持っている教育力を高めるという方向で書いていただければいいんだと思うんですね。ぜひそこのところをどういうふうに創意工夫して行政的構造を乗り越えていくかというところがここに入ることによって、ここに市の教育力が高いシステムが出来上がることによって住民の方々、すべからく●●に影響があって、しかも十分にニーズと与えられるものに相関性があると感じられるような構造になればいいですね。そこのところを納得できるような書き方で書いていただけるといいかなと思います。そのことが多分、意味のある方向性になって皆さんの学びが多いようになってくるような構造になるので、高校や大学がそれに協力できるようなシステムにシステマティックな構造でここに書き込んでいただいたらいいのかなというふうに考えます。

このような時代なので、学習の質というのがすごく転換していくところだと思うんですけど、基礎的な学びの構造というのは別にデジタルであっても私は変わらないと思うんです。先ほど就学前の子どもたちがいろんなものに興味を持って学習するときにデジタルをどう生かすかという話があったと思うんですけど、結局そういうことで学びの構造の中身というのをどういうふうに●●していくかというのが重要なのであって、本質的なことは多分変わらないんだと思うんです。ただ、皆さんはその機器を使って学習をするネットワークが構築されるとハードの面と、ソフトの面がそろってないと学習ができなくなるので、そこはどうしても優先的にそろえていただかないといけない。だからどの地区に行っても図書館にＷｉ−Ｆｉやネットワークが十分にあるという状況にならないと困るし、どこに住んでいても図書館の本とかが予約できるとかいうシステムが張り巡らされているというのが誰にも分かるような状態で、ここに住んでいると育っていただけると思うんですよね。自然に理解していて、すぐにアクセスして借りるとか、図書館の人にいろいろ聞きにいけるというような状況に多分ならなきゃ駄目なんだと思うので、そういうところがちゃんと網羅されていればいいんだと思うんですけどね。その辺をお願いしたいと思います。

他にご質問等、ご意見ございませんか。もうちょっと具体的なところが出てから議論を深めていったほうがいいかもしれませんが、よろしいですか。お時間にもなってますので事務局にお返ししますのでよろしくお願いします。

事務局　　中村先生ありがとうございました。事務連絡を１つ申し上げます。次回、検討会でございますけれども 10 月中の開催を予定しております。今回、資料で整理し切れていなかった次期計画の指標や事業名を整理し、委員の皆さまからご意見を頂戴したいと考えております。その後、日程調整をいたしましてご連絡をさせていただきますので、ご臨席を賜りたくよろしくお願いいたします。

次に、もう１点でございます。現在、大栃中学校で進めております山村留学のＰＲ動画につきまして、ここで皆さまにご覧をいただきたいと思っております。よろしくお願いします。

動画説明

事務局　　ありがとうございました。もう１点です。８月７日からＲＫＣ高知放送で山田高校のＣＭも流れるということでありますので、そちらのほうも皆さんどうぞご覧になってあげてください。お願いします。

それでは、閉会にあたりまして白川教育長からごあいさつをいたします。よろしくお願いします。

白川教育長　　本日はどうもありがとうございました。これまで以上に非常に密度の濃い協議会になったというふうに大変感謝を申し上げます。本日いただいた課題につきましては、今後しっかりと改良を重ねてまいりたいと思いますので、次回の開催にもどうぞよろしくお願いいたします。また、本日は教育振興基本計画の話し合いにおいて十分説明ができていなかったことにつきましてはお断りを申し上げ、またサポートしていただいた教育委員さんにも心からお礼を申し上げたいと思います。本日は本当にありがとうございました。

閉会